

第2回日韓親善会議を顧みて

# 日韓に“ロータリー大橋”ができた これからは交通量を増やす努力を

前回はもやもやを一気にさらけ出し、かたくるしさがでた。今度はそういうものは、いっさいきれいになくなって、これから、仲良くしようという雰囲気ができた。

□ これで仲良くできる雰囲気ができた

**青山** 今回の日韓親善会議が、ここに成果をおさめて終了することができましたことは、朴委員長はじめ韓国の方々の絶大な協力によるものと、心からお礼申し上げます。第1回の昨年は、韓国にお伺いし、たいへん手厚いおもてなしをいただき、ただただ感激するのみでしたが、今回私どもがお世話する番になってみようと、手ぬかりばかりで韓国側の皆さんのご理解があったらこそという気がいたします。重ねて厚くお礼を申し上げたいと存じます。

**朴** いいえ、これはもう儀礼的な意味ではなくて、日本側委員の皆さんに対し、心から「ご苦労さまでした」「ありがとうございました」

□ 出席者

日韓親善会議 日本側委員長	<b>青山 幸高</b>	(市川東)
日韓親善会議 現地実行委員長	<b>平島健次郎</b>	(神戸)
日韓親善連絡委員長	<b>細谷 実</b>	(藤沢北)

韓日親善会議 韓国側推進委員長	<b>朴 東 奎</b>	(漢陽)
韓日親善会議 韓国側実行委員長	<b>金 永 徽</b>	(漢陽)
韓日親善連絡委員	<b>尹 大 榮</b>	(安東)

順不同 敬称略

とお礼を述べたいとおもいます。客観的にみてこのたびの第2回親善会議は非常に成功だったといえます。まず、われわれは昨年「ロータリーの大橋」をかけることができた。そしてまた今回はその橋の幅を倍に大きくした。次回はさらに幅をひろげ、交通量をふやすよう努めていかなければなりません。

このたびの、韓国からきた260人のロータリアンと家族が、日本のご家庭で情のこもったもてなしをいただき、厚く感謝申し上げます。

**平島** 現地の実行委員会として、また、神戸市民としても、ポートアイランドを大勢の韓国の方々に見ていただき、たいへんうれしいことでした。現地の者としてしましては、なかなか正確な予測ができず、腐心もありましたが、おむねおほめの言葉をいただき、これも「ロータリーの友情」のおかげだと、ありがたくおもっています。

**金** 第1回のときは、日本と韓国とのあいだに、何かもやもやした感じがあり、それを一気にさらけ出したいという気持ちがあって、若干、とげとげしいところもなくはありませんでしたね。しかし、今度はそういうものは、いっさいきれいになくなって、これから仲良くしようという雰囲気ができたとおもうんです。それと、ホームホスピタリティは、ずいぶんうまくいったとおもいました。

**尹** なにしろ、両国で集まったロータリアンが600人以上にもなるわけですが、それが善意にはじまり善意で終わったというのは、ほんとう



左から平島、尹、朴、青山、金、細谷の各氏

に大きい収穫だったと存じます。

とくに、お骨折りいただいた日本側の青山委員長、平島実行委員長、細谷親善連絡委員長をはじめ役員の方々に、真心のこもった親切、ほんとうにありがとうございました。身にしみる感謝の気持ちで、それ以外に言葉もないほどでございます。

**細谷** たしかに、金さんのおっしゃる第1回のあしたもやもやを乗り越えたからこそ、今回の前進があったのだと考えます。その意味で主催された向笠会長に感謝いたします。

さて、今後は今回いろいろ協議したことを、親善連絡委員会がお引き受けして、実現の方向へもっていくわけですが、3年に1度位の割合で会長主催の親善会議をもつようRI会長にお願いし、その間は親善連絡委員会を両国で交互に行なうことが決まっています。

□ 今後は両国の親善連絡委員会が中心に

**青山** 今回の親善会議は、記念講演、分科会それにホームホスピタリティが3本柱でした。このうち分科会については、前回の反省から、発言の機会をふやすためにもうけられたのですが、テーマに設定した①青少年交流、②米山奨学会および教育文化財団、③世界社会奉仕、④姉

妹クラブの4項目の分けかたについて、今後はどうお考えでしょうか。

**細谷** 呉在環さんからも、お手紙をいただいています。その4つが、現在ではいちばん実際的ではないかとおもいますね。それで、親善連絡委員会では日本側として、青少年交流を辻兵吉PG(秋田)、川瀬保PG(名古屋南)、米山および教育文化財団を岡野正実PG(門司西)、世界社会奉仕を伊藤恭一PG(大阪)、それに姉妹クラブを伊藤茂PG(相模原中)に担当いただく予定です。韓国側ではいかがですか。

**朴** 私どもでも協議して決めますが、4つの分科委員会については、日本側とマッチしたかたちで考えたいとおもいます。それが決まりましたらお知らせいたしますから、分科委員長同士で連絡のできるようにいたしましょう。やはり、これからの仕事は、われわれが意見交換したことを、どのように具体化していくかが問題になりますね。

**金** その方法ですが、さきほど細谷さんからもご説明がありましたが、親善会議は若干フェスティバル的な催しだから、話しあったことを煮詰める組織として、連絡委員会を活用する、そして、分科会は4つでもいいし、つけ加えてもいいですが、それが中心になって実務をすす

めていく、それが、2、3年たつて親善会議という名のもとに、フェスティバル的な集いを催して、氣勢をあげるということだ。

朴 ですから、組織としては連絡委員会が主体になり、その下に分科委員会がある、各分科委員会には30人位に委員を委嘱する、そういうようになるのではないのでしょうか。

青山 そうもっていかないと、発展しないでしょうね。それについては、各地区にガバナーがおられますので、韓国、日本ともそれぞれご意見を出すことになるとおもいますが。

#### □ 日本側の皆さんの厚いおもてなしに感謝

青山 日韓親善会議のもう一つの大きな柱はホームホスピタリティでしたが、結果的には、単身者の受け入れはしなかったわけですが、はじめ、こちらでは単身者もふくめて考えていたのです。その辺のところを金さん何か。

金 特別の理由があったわけではありませんが、受け入れ家庭がご夫妻でお迎えいただくのに、一人では失礼にならないか、と簡単に考えたただけでした。それと、全員ホームホスピタリティに参加希望の人は参加してください、といったわけです。今後は、単身者もふくめて考えてもいいかも知れません。

平島 今後、こうしてだんだんやっていくうちに、呼んだり呼ばれたりというケースもふえてくるでしょう。そういう場合、なるべく希望がかなえられるようにしてあげたいものですが本来はお友達どうして呼ぶのではなく、まったく新しい方をお迎えするのが、自然の姿だとおもいますが。そこを、これからの問題として考えておかななくては、という感じがします。

金 そうですね。新しい友達をつくるのが目的ですから。

尹 今回は2度目ですし、今回の親善会議の性格といいますか、その状況にあわせて、そう計画したのですから、それはそれといたしまして、また、つぎのときはそのときの会議の性格にあわせて、これを決める、というふうに、その都度、実際にあつような方法でやったらいいとおもいますよ。

朴 それから、今回、神戸で開催して神戸付近のクラブ会員が招待してくださった、これは非常によかったとおもいます。たとえば、これが遠方の方がホストになったとしたら、よくなかった。ですが、ホームホスピタリティは、どのクラブでもできるわけではない、また、単なる割り当てにしますと、ホームでやるのではなくレストランでやってしまうことにもなりかねません。やはり、大会、ホームホスピタリティとも、どこでやるかが大きな問題となりますね。

尹 今後、考えなくてはなりませんのは、言葉の問題があるとおもうんです。今回は日本語を主体にしましたが、4、5年後はもうそれも無理になるかも知れません。英語でやるのも一つの方法でしょうが、英語ができない日本人も韓国人もいるわけで、同時通訳をつけてやらなければならなくなるとおもいます。

青山 昨年は、たしか親善会議としての決議があったとおもいますが、ことしはやりませんでした。二、三の方から「決議はしないのか」と聞かれましたが、今回の性格上も、また、そうする機関でもありませんし、そうお答えしておきました…。つぎの第3回はいつになるかわかりませんが、ひらかれるとしたら、これまでの反省のうえにたつて、よりよい方法で考えればいいとおもいます。第2回はこれで終りましたが、準備の段階から開催期間まで、ずっとお骨折りいただいた平島さんには、この後も、会議の記録をつくるという重要なお仕事が残っています。将来のためにたいへん貴重な資料となるわけでありまして、ご苦労さまですが、よろしくお願いいたします。

朴 最後に、韓国側の推進委員長としましてもう一度申しあげたいのです。日本側の委員の皆さん、準備、進行にいたるまで、ほんとうによかったですよ。そして、参加くださった日本と韓国のロータリアンの皆さんとご家族によって、非常な成功だったと確信いたします。かさねて感謝申し上げます。